

平成30年第2回市議会定例会質問者一覧表

(平成30年6月11日、12日、13日)

代表質問者一覧表〔第2回市議会定例会 平成30年6月11日開議〕

質問日	平成30年 6月11日 (月)			質問方式	一括方式		
質問順位	1	会派名	自由民主党浜松	議席番号	43	氏名	和久田 哲男
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 ラグビーワールドカップ2019について	<p>公認チームキャンプ地の内定は、誘致に向け運動してきた関係者の努力の賜物である。世界三大スポーツイベントの一つであるラグビーワールドカップが今回初めてアジアで開催されることになり、国内はもとより世界からも注目されており、国内外から多くの観光客が訪れることが予想される。</p> <p>そこで以下3点について伺う。</p> <p>(1) 本市が公認キャンプ地に決まり、日本代表とスコットランド代表がやってくる。両ナショナルチームの受け入れに向けた市長の意気込みを伺う。</p> <p>(2) ナショナルチームの受け入れに万全を期すためにどのような準備をしていくのか伺う。また、世界三大スポーツイベントと言われる「ラグビーワールドカップ」の機運を地域に醸成するためにどのような取り組みを行うのか伺う。</p> <p>(3) 開催までに残された時間には限りがある。現在進めている観光誘客に関する取り組みについて伺う。</p>						鈴木市長 寺田文化振興担当部長 石坂観光・ブランド振興担当部長
2 第41教育飛行隊浜松基地移動について	<p>防衛省から救難機及び輸送機のパイロットを養成している第41教育飛行隊を平成32年度に浜松基地に移動させたいとの申し入れがあり、周辺住民の意見を聞くため45自治会を対象に23回の説明会が開催された。本市からは申し入れへの回答として、受け入れを容認しつつ騒音や安全教育等に対する意見や要望を列記した要請が行われた。</p> <p>そこで、第41教育飛行隊の浜松基地への移動についての総括を伺う。</p>						鈴木市長
3 竹林の現状と活用について	<p>本市の竹林面積は995ヘクタールにのぼるが、地権者の高齢化や竹の国内需要が激減したことで手入れが行われなくなった放置竹林も相当あると思われる。放置された結果、竹が密集して根が浅くなり、竹林の表層滑りが発生し災害が起こることが危惧される。放置竹林を整備しているボランティア団体もあるが、荒廃した竹林が多く限界がある。一方、竹の活用事例として堆肥化や雑草予防の被覆材、微粉末化による食材や家畜飼料への活</p>						

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>4 中山間地の養殖について</p>	<p>用等があるが、いまだ限定的であり、竹を活用する出口部分のシステムづくりが重要になる。 そこで以下4点について伺う。</p> <p>(1) 竹の活用の実例として微粉末化による食材としての活用などがあるように、未利用食材などの1次産品を2次産業、3次産業と結びつけ付加価値をつけることで新たな価値を創造する、6次産業化への支援の実績と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 高齢級化した荒廃竹林が拡大している状況が続くと竹の根は浅くなり、竹林の表層滑りが危惧される。実際に地域のボランティア団体が竹の間伐を行った場所において亀裂が見つかった例もある。間伐等の対応が早ければここまでの状況にはならなかったと考える。竹林の高齢級化が進む中、今後の荒廃竹林の対策について考えを伺う。</p> <p>(3) 現在、食用としてはタケノコや竹の微粉末化による利用などが行われているが、埋もれている竹資源を有効活用する具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>(4) 浜松地域は浜名湖や天竜川といった自然に恵まれていることから、竹を活用した体験型野外活動は子どもたちにとって有意義と考えるが、学校の野外活動に取り入れる考えはないか伺う。</p> <p>本市の中山間地域は地区によって差はあるが過疎化・高齢化が進んでいる。こうした中、各地域では地域住民が主体となり、NPOを設立するなど地域活性化を目指した取り組みが行われている。今後、人口減が進行していく中で中山間地域が持続していくためには働く場所が必要であると考えます。 そこで以下2点について伺う。</p> <p>(1) 平成27年から始まった、天竜区佐久間町でのアワビの養殖については、山で海のものを育てるという新たな発想で注目を集めている。事業開始から約2年半が経過するが、現状と本格的な産業化に向けた今後の方向性について伺う。</p> <p>(2) 天竜区春野町で民間事業者が取り組むチョウザメの養殖については、規模拡大するなど順調に事業が進んでいると聞いている。民間レベルで進められている事業であるが中山間地域の新たな産業として根づいていくため市の支援も必要と考える。この事業に対する市の認識と今後の支援策について伺う。</p>	<p>鈴木市長</p> <p>山下農林水産担当部長</p> <p>〃</p> <p>伊熊学校教育部長</p> <p>山下市民部長</p> <p>山下農林水産担当部長</p>
<p>5 浜松版スマートシティの実現に向けた取り組みについて</p>	<p>本市は、太陽光発電導入量日本一に輝くなど再エネ導入を積極的に進めている。昨年12月にはスマートタウンガイドラインを策定し、市街化区域内の大規模遊休地のスマートタウンへの誘導を進めている。浜松市エネルギービジョンでは、浜松版スマートシティの実現を掲げる</p>	<p>長田副市長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>6 第4次浜松市地域福祉計画策定について</p>	<p>中で、市内でスマートコミュニティの構築を目指しモデルエリアを決め進めている。</p> <p>そこで以下2点について伺う。</p> <p>(1) 本市の取り組みの現状と今後の方策について伺う。</p> <p>(2) 浜松市エネルギービジョン策定から5年が経過しようとしているが、見直しについての考えを伺う。</p> <p>近年の高齢化や核家族化による地域のつながりの希薄化などの影響で、社会的に孤立する人が増えている。また、高齢者の孤独死、老老介護による事故や徘徊・虐待、近年では認知症の患者数も増加している。そうした中、国は新たに各自治体に対し「地域共生社会」の実現に向けた包括的支援体制の整備を求めている。地域福祉計画においては、地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉、その他福祉に関し共通して取り組むべき事項を定めるなど計画の充実が求められている。</p> <p>そこで以下2点について伺う。</p> <p>(1) 本市における取り組み状況について伺う。</p> <p>(2) 国の指針を踏まえ、市はどのように地域福祉計画を策定していくのか伺う。</p>	<p>朝月健康福祉部長</p>
<p>7 若年性認知症対策について</p>	<p>現在の超高齢社会における認知症発症の実態は、専門医の受診までには至らない軽度まで含めると把握し切れないと感じている。特に近年、65歳未満の方が発症する若年性認知症がある。働き盛りの現役世代のため本人だけでなく家族の負担も大きく、症状により生活に支障が出たり、退職せざるを得なくなったりするなど経済的な影響が出てくる。</p> <p>そこで以下2点について伺う。</p> <p>(1) 若年性認知症者の状況について伺う。</p> <p>(2) 働き盛りである若年性認知症者の支援について伺う。</p>	<p>朝月健康福祉部長</p>
<p>8 道路ネットワークについて</p>	<p>本市では、将来の都市構造として「拠点ネットワーク型都市」を掲げ、この構造を支える「3つの高規格幹線道路」と「5つの環状道路」及び「11放射道路」による道路ネットワークの形成を目指している。昨年度、平成29年度から10年間の新みちづくり計画を策定した。計画では、基本方針の一つとして「拠点間を移動しやすいみちづくり」を掲げ、拠点ネットワークとして「都市計画道路植松伊左地線」等を設定している。また、交通の分散化を図る環状道路として「都市計画道路上島柏原線」等を位置づけている。</p> <p>そこで以下2点について伺う。</p> <p>(1) 都市計画道路植松伊左地線の今後の整備計画について伺う。</p> <p>(2) 都市計画道路上島柏原線の今後の整備計画について伺う。</p>	<p>柴山土木部長</p>

